

●浅田 秀子(あさだ・ひでこ) メゾ・ソプラノ

辞書編集者、日本語研究者、日本語教師、メゾ・ソプラノ歌手。東北大学文学部国語学専攻卒業。専門は現代日本語の修飾語・敬語、辞書学、日本語教育、ドイツ・リート研究。辞書・著書多数。博士(文学)。元中国河北大学外文系日語科教師。現在日本語コスモス代表、日本大学非常勤講師。2歳より生田流箏曲を、10歳よりピアノを、15歳より声楽を学ぶ。大学在学中は混声合唱団に所属し、バッハ・ヘンデル・モーツァルト・ヴェルディ等の宗教曲のアルト・ソロ及び合唱アルトを歌う。大阪国際音楽コンクールファイナル入選、日本クラシック音楽コンクール全国大会入選。1996年よりドラマティック・リート・リサイタルを開催。これまでに17回を数える。CD「ドイツ・リート劇場」シリーズを日本語コスモスよりリリース。著書『シューベルト「冬の旅—冥界のヘルメス」解釈と演奏法』の英文の要旨がウィーンのFranz Schubert Instituteのウェブ雑誌「Sparks & Wirely Cries」に紹介され、センセーションを巻き起こした。日本文藝家協会、日本語学会、フランツ・シューベルト・ソサエティ、日本ドイツリート協会、各会員。

●松山 優香(まつやま・ゆか)ピアノ

ドイツ国立カールスルーエ音楽大学大学院首席修了。「デュオのためのリート」におけるピアノ奏法を、ハルトムート・ヘル、白井光子両氏のもとで学ぶ。その後ベルリンに在住。ソロ、室内楽のほか、主に歌手とのデュオを中心に、国内はもとよりヨーロッパ各地で活発な演奏活動を展開、各新聞紙上においても高い評価を受けた。リート・ピアニストとして、日本を代表するすぐれた歌手と共演を重ねるほか、NHK-FM放送、ラ・フォルジュルネ、仙台クラシックフェスティバル等にもたびたび出演。ドイツ人バリトン歌手ウルリッヒ・ヴァント氏とは長年にわたりリート・デュオを組み、定期的に演奏活動を行うほか、エレナ・オブラスツォワ女史、シュテファン・ゲンツ氏等、世界的著名歌手との共演も多い。またこれまでにエリザベート・シュヴァルツコプフ、ジェラルド・スゼー、ローラント・ヘルマン各氏の助手も務めている。SBC音楽祭特別伴奏者賞受賞、ミュンヘン国際音楽コンクール公式伴奏者。イタリア・セニガリア国際ピアノコンクール審査員。近年ではドイツ・ベルリン本拠地にて、ベルリンフィルメンバーと共演、好評を博した。日独交流150周年記念演奏会公式招聘アーティスト。これまでにピアノを手塚敏子、日高正枝、ゲルハルト・ベルゲ、ヤン・ホラーク、ハリーナ＝チェルニー・ステファンスカの各氏に師事。東京二期会ピアニスト。洗足学園音楽大学・大学院講師。

●梶取さより(かじとり・さより)語り

沼津市出身。静岡大学卒業。東京大学教育学部附属中学校教師を務める傍ら、アレクサンダーテクニクなど発声法を学ぶ。'96 ゲーテ詩 リスト作曲「ミニヨン」イタリア語版を初演。'97 ユーハイム主催、ゲーテの詩朗読コンテストで準優勝。'05 ドイツ文化センター・毎日新聞社主催、シラー没後200年記念演奏会で朗読好演。昨年出演した三鷹市太宰治文学サロン第92回朗読会では、「朗読会史上最高の満足度」と絶賛された。練馬区演奏家協会会員。楊名時太極拳師範。

浅田 秀子 著

『シューベルト「冬の旅—冥界のヘルメス」解釈と演奏法』
ブイ・ツー・ソリューション刊、A4判284頁、税込定価5130円
Amazonにて絶賛発売中。